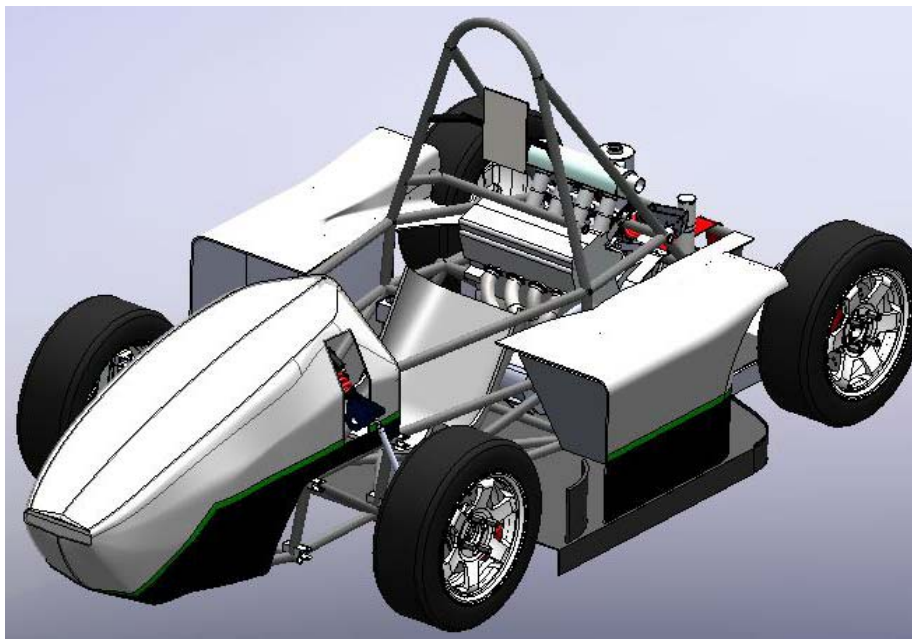


## 悔しさ残る大会

近畿大学フォーミュラプロジェクト  
Kinki university formula project  
<http://dantai.kindai.ac.jp/rikou-jidoken.html>



### 今回の総合結果・部門賞

●総合51位

### Profile チーム紹介・今までの活動

近畿大学フォーミュラプロジェクトは2003年発足し第2回大会から参加を続けています。チームメンバーは学部2、3年生が中心となって活動を行っています。チームとしては、上位獲得にむけて可能性のある物は積極的に新たな開発を行う方針です。

### Team-member チームメンバー

#### 堀山 敦司 (CP)

梶原 伸治 (FA)、宮河 貴士、村田 景亮、石高 悠輝、口塚 尚宏、藤本 和紀、福岡 忠将、本郷 裕也、田中 修平、山崎 慶法、花木 創士郎、原田 英明、中村 紫苑、長谷川 歩、藤橋 卓也、竹内 彰宏、木村 文哉、和多野 良祐、志村 慎太郎、藤田 岳、池 智、陳、遠藤 正規、真田 大地、増田 優治

### Sponsors スポンサーリスト

礎、今中鋼材、ウエストレーシングカーズ、NTN、AVO MoTeC Japan、エムエスシーソフトウェア、F.C.C.、フレタカー、オフィススリーワークス、川崎重工業、キノクニエンタープライズ、桑原インターナショナル、サンスター、住友電装、ソフトウェアクレイドル、ソリッドワークス・ジャパン、大東コーポレーション、大東ラジエーター工業所、ダイハツ工業、ダイヘン、D.I.D、東京アールアンドデー、東日製作所、トライアル、ニッコー溶材工業、日信工業、日ポリ化工、光スロッターワーク所、VSN、ミスミ、三宅工業、名阪スポーツランド、やまと興業、山本金属製作所、ユタカ技研、和光ケミカル、22

### Presentation プレゼンテーション

マシン名: KFR-11

今年度KFR-11は大会上位成績を残すため「最高のドライバビリティ」をコンセプトに開発を行いました。近畿大学では2、3年生が中心となり人数の関係もあり、ドライバー育成の時間確保に制限があります。ドライバーが車両の状態を把握しやすく、フィードバックを確実に得られる車両をめざしました。

そこで、誰が乗ってもコンスタントに乗りやすく速い車両開発が絶対条件となります。そのため、車両では、シミュレーターを用いた理想重量配分を設定、幅広いエンジントルクの獲得をめざしてのスーパーチャージャーの採用、電磁シフト、自作デファレンシャルギヤカバー、エアロカウル（アンダーパネル）等の採用を決定しました。

結果的に、歴代最高のエンジン出力の獲得に加え、走行性能の向上に成功しました。また、ラジエーター、スプロケット等のパーツにもオリジナルの設計を用い、信頼性向上をめざしました。

### Participation report 参戦レポート

今大会では、総合順位10位を目標に大会に臨みましたが、結果としては程遠い結果となりました。オートクロスは走り切ったものの、天候の関係でエンデュランス走行ができなかったこともあり大きく順位を落とす結果となってしまいました。大会全体を終えて、原因や反省点は多く一概にはいえませんが、大きくは車両完成の遅れによる走行練習の不足、車両重量の大幅な増加と考えます。

車両完成の時期については、前年度大会でも問題点であったので新チーム開始時に細かい予定を立て、綿密なスケジュール管理を行ってきました。しかし、完成後エンジン乗せ換えをしなければならなくなり大きく時間を失ってしまいました。エンジンに大きく手を加えている近畿大学では、大会直前でのエンジントラブルの問題からNA化も視野に入れていましたが、今年度目標からスーパーチャージャー、ドライサンプ等必要と判断しました。車両重量に関しては、チーム全体として甘みていたことを思い知らされる結果となりました。結果的に動的審査の得点を大きく落としてしまいました。

**Team-Movie** <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/12th/movie/43.html>